

テーマ 少林寺拳法の教えを日常生活でどう  
生かすか

兵庫県 報徳学園高等学校

高校二年 三段

クワタ ヨシノリ  
鍛田 由典 十六歳

書き出しは一マスあける。

改行の場合も同じく、書き出しは一マスあける。

、。、「」などの符号は原則として二つのマスに入れる。

少林寺拳法の教えを日常生活でどう生かすか

少林寺拳法の教えを日常生活で生かす必要

はあるのでしようか。どんな教えなら日常生

活で生かすべきでしようか、と考えたとき私

は「脚下照顧」と「作務」にたどり着きました

た。「脚下照顧」とは脚下を照らして顧みる

と書きますが、照らすのは何の光なのでしよ

うか。私は自他共衆の光だと考えます。つま

り「脚下照顧」とは、脱いだ靴は揃えるとい

う行動の中に自他共衆の光で自分の行動は良

か「たのかを顧みる」というものです。

もう一つ着目したのが「作務」です。私は

「作務」という言葉を「務めを作る」と解釈

し自他共衆に繋がる務めを主体的に見つけ出

すことと考えています。その取り組みの一つ

として少林寺拳法においては修練前後に全員

で道場の掃除を行っています。私たちの道場

は普段自分たちが修練を行う以外にも、体育

の授業 近くにある大学の少林寺拳法部の方

書き出しは一マスあける。

改行の場合も同じく、書き出しは一マスあける。

「。」「」などの符号は原則として一つのマスに入れる。

マヤ道院の方々など、様々な人が利用して  
 います。自分たちが修練を終えてきれいに掃除  
 をし、次の方々にバトンタッチをする。次に  
 使う方々はとても気分よく修練できます。自  
 分のことだけを考えるのではなく、他の人の  
 ためを思っ、て行動する、これこそが自他共榮  
 の理にかなっ、ているといえるのではないでし  
 うか。

少林寺拳法が目指す自他共榮の社会の實現  
 のためにも、より多くの人々が少林寺拳法の  
 教えを実践していく必要がありますが、私は  
 その第一歩として部員を増やすことが大切だ  
 と考えます。人々はその場所に興味や魅力を  
 感じると自然と集まっ、てきます。少林寺拳法  
 を修行する私たちが少林寺拳法に対する熱い  
 心を持ち、全力で楽しみ輝いている姿が道場  
 にあれば、部員は次第に増えるでしょう。そ  
 うして増えた仲間とともに、脚下照顧と作  
 務<sup>ル</sup>を実践していくことが大切です。  
 少林寺拳法は非常に魅力的な技術であるが

書き出しは一マスあける。

改行の場合も同じく、書き出しは一マスあける。

「。」などの符号は原則として、二つのマスに入れる。

ゆえに修練を重ね、上達してくるにしたがって大切な教えを見失うことがあります。そんな時にこそ「脚下照顧」と「作務」を通して日常生活のありとあらゆるところで自他共楽の光に自分自身を照らし、果たして自分の行動は自他共楽の理にかなっているのかどうかを点検していけば日常の行動が自然と良くなります。

このように修練を通して自他共楽の光に自分自身を照らす姿勢を身につけて、道場の外で実践すれば周りの人の目にも触れます。身近な人のためになる行動を繰り返せば、私たち拳士の自他共楽の姿勢が理解され、心ある人は自分の行動も変えていくでしょう。古語に「徳は孤ならず、必ず隣りあり」と言います。自他共楽の実践は必ず広がりを見せ、皆が明るく楽しく暮らしていけると思います。このような点からやはり少林寺拳法の教え、特に「脚下照顧」と「作務」を日常生活で生かしていくことだと思います。

書き出しは一マスあける。

改行の場合も同じく、書き出しは一マスあける。

「。」などの符号は原則として二つのマスに入れる。